

編集後記

「長い冬が過ぎ、山々の雪がせせらぎとなって野を潤し始めると、やわらかな光の中で春を待ちかねた花々が一斉に咲き始めます。夏は、青空の下、太陽の恵みを一杯に浴びて、野に山に色とりどりの花が咲き乱れます。」高橋はるみ知事の「北海道フラワーツーリズム宣言」の一節です。北海道では、この宣言にもあるように4月中旬以降、カタクリ、キタコブシ、ミズバショウ、エゾヤマザクラ、ライラックと春を告げる各種の植物が次々に開花し、6月には、野生スズランの群生地が可憐な花で埋め尽くされます。

今年の冬から春にかけての天候は、北日本では気温の高い日が続き、月平均気温が1946年の統計開始以来3月として第1位を記録した一方で、北海道や東北地方の日本海側での数度にわたる暴風雪の襲来、東海、近畿地方での記録的な降雪等全国的に寒暖の振れや地域間の気候の差が大きく、各地の農家の皆様は春作業開始のタイミングの見極めに苦労されたようです。

道内各地の桜（ソメイヨシノ、エゾヤマザクラ）の開花は平年に比べ10日以上も早く、リンゴ、オウトウ、ブドウ等の落葉果樹の開花も同様に10日以上早い状況にあります。農作業が本格化してくる4月下旬以降5月半ばまで非常に好天に恵まれ（高温少雨）、全道的に春作業は早まり順調に進んでいます。十勝地方では、馬鈴しょ、てん菜等の植え付け作業が順調に4～6日早く終了し、小豆や大豆の播種も5月15日前後から始まり早めに進んでいます。

春の天候がよかったことから、逆に今年の夏がどのような気象で推移するかが心配されますが、気象庁が去る5月25日に発表した8月までの3か月予報によると、今年は、北海道から東北にかけての北日本の気温は平年並みですが、天気は数日の周期で変わりやすく、平年に比べ曇りや雨の日が多い見込みとのことです。豆類を含め今年の農作物がよい作柄となることを期待し、農家の皆様、豆類の流通・加工に携わる関係者の皆様、消費者の皆様と共に喜べるような豊穰の秋を迎えたいと思います。

(池田 洋一)

発行

公益財団法人 日本豆類協会
〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13
三会堂ビル4F TEL：03-5570-0071
FAX：03-5570-0074

豆 類 時 報

No. 79

2015年6月20日発行

編集

公益財団法人 日本特産農産物協会
〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13
三会堂ビル3F TEL：03-3584-6845
FAX：03-3584-1757